

## パブリックアートから地域美産へ

-日本におけるパブリックアート(PA)の動向を、PAフォーラムにおける19年間の研究・普及活動の記録から探る-

杉村 荘吉 SUGIMURA Soukichi (パブリックアート研究所)

日本のパブリックアート(PA)は1960年代から始まったとされるが、PA研究所主宰(前身のPA・ライブラリーを含む)による過去20年(1988~2008)の研究・普及活動は、日本におけるPAの紹介・普及・進化の歩みと重なる。それ故に、同研究所が主宰してきた研究・普及活動の推移を関連記録から探り、その成果を考察することは、日本におけるPAの一つの歴史を明らかにすることに繋がると考え、「パブリックアートから地域美産へ」と云うテーマの下に試みしてみる。

発表者は、1988年にパブリックアート(PA)研究所の前身「PAライブラリー」の設立を企画、翌年に設立実現以後の20年間、東京と関西(芦屋→大阪2005年迄)を拠点に、日本におけるPA活動の初期段階からの研究・普及活動と、「地域づくりにおけるPAの活用」等に関する情報・資料の提供、行政・民間団体が実施する関連事業に対するコンサル指導・業務受託等の事業活動を通して、内外の専門家、学生、社会人と幅の広い交流を続けながら、日本におけるPAの普及発展に貢献してきた。

事業活動の内、特に「パブリックアート研究会」(7回、1991~'92)→「パブリックアート・フォーラム」(定例会27回、全国フォーラム6回、'94~2001)→「パブリックアート・フォーラム 地域美産研究会」(60回、'02/12~'09/3)に到る、NPO組織を設立し実践してきた研究・普及活動は、「日本ならではのPAとその活用の研究」を目的として始めた事業であるが、その20年間の活動は、我国のPAの黎明、興隆、低迷、普遍化の各時期を経過しつつ、催事毎の記録を残しながら今も継続している。

その間、研究所とフォーラムに集積された資料・情報・記録を整理分析しながら、「PA研究会」→「PAフォーラム」→「PAフォーラム 地域美産研究会」で提案・議論された研究発表内容等を、例えばPAへの関心対象の変化・関心度合いの強弱等の視点を交えて観察すると、過去20年間の日本のPAが、時々々の社会状況の変化を乗り越えて、どのように歩み、どのような成果を得てきたかを知ることができる。

この口述発表は、上記団体を主宰している発表者が、PAフォーラムの活動記録と関連文献を精査することにより、過去20年に亘る「PA研究会」→「PAフォーラム」→「PAフォーラム地域美産研究会」に到る100回程の活動を通して観察した、日本におけるPAの動向と成果を、「社会のために働くアート、パブリックアート」→「地域の人々に愛され、地域の再生に活用できるパブリックアート」→「パブリックアートの範囲・解釈の見直し」→「社会美産・地域美産の名称創造」→「地域ならではの美産たち(鎮守の森から現代PAまで)が有する社会文化的価値の再発見・再評価」→「それらの価値を、地域ならではの個性的街おこし・生活おこしに活用」と、PAの意義・役割の変遷について、前述の仮説を立てて探ると同時に、パブリックアート全般の動向と、研究・普及活動の成果についても探ろうとするものである。